

2018(平成30)年度 西南学院の決算概要について

西南学院をはじめ私学振興助成法により補助金の交付を受ける学校法人は、学校法人会計基準の定めに従い会計処理を行い、計算書類(決算書)を作成する必要があります。本学院の2018(平成30)年度決算は、5月8日に監事監査を終了し、5月27日の定期理事会において承認されましたので、その概要についてご報告いたします。

(1) 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、当該年度の「教育活動」「教育活動以外の経常的な活動」「その他の活動」に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容及び均衡の状態を明らかにするためのものです。

教育活動収支の収入の部においては、私学退職金団体からの交付金が増額となったこと、入学検定料収入が増額となったこと等により、予算比で0.5億円多くなりました。支出の部においては、教育研究経費3.9億円、管理経費1.6億円の予算残等の結果、予算比で6.0億円少なくなりました。人件費は75.1億円であり、経常収入に対する割合は58.2%で、全国平均(同系統法人平均)55.6%より大きな割合を占めています。教育研究経費は、前年度実績より0.8億円の減少となっていますが、経常収入に対する割合は25.7%で、全国平均(同系統法人平均)の31.1%より少ない割合となっています。学校毎に事情が異なりますので、一概に全国平均と比較しての良し悪しはいえませんが、さらなる教育研究の充実を目指します。

事業活動収入は、前年度実績より3.8億円増加し、予算比で0.7億円多くなりました。事業活動支出は、前年度実績より1.8億円減少し、予算比で7.0億円少なくなりました。この結果、基本金組入前当年度収支差額は、予算より7.7億円改善され、13.8億円となっています。事業活動収支差額比率は10.5%です。

基本金組入額は、旧図書館(新館)改修工事、5号館空調設備更新、中高校舎トイレ改修工事、マルチメディア教室増設整備等に伴う第1号基本金、大学体育館・西南会館・学術研究所・新講義棟建築整備のための第2号基本金8.7億円、大学奨学基金・教育研究振興基金のための第3号基本金1億円等です。

基本金組入後の当年度収支差額は、予算より13.4億円好転して、1.6億円の支出超過となっています。この結果、前年度繰越収支差額を加えた翌年度繰越収支差額は、35.3億円の支出超過となっています。

(2) 資金収支計算書

資金収支計算書は、当該年度の諸活動に対応する全ての収入及び支出の内容並びに支払資金のてん末を明らかにするための計算書です。

2018年度の資金収入は174.3億円であり、前年度繰越支払資金84.7億円を合わせた資金収入の部合計は259.0億円となりました。一方、当年度の資金支出は172.4億円となっています。

資金収入の部合計から当年度資金支出合計を控除した、翌年度繰越支払資金は前年度より1.9億円増加し、予算比で11.3億円多くなりました。

(3) 貸借対照表

貸借対照表は、年度末における学校法人の財政状態を示しています。

2018(平成30)年度末での資産の部合計は700.7億円で前年度より10.2億円増加、負債の部合計は59.2億円で前年度より3.7億円減少しました。その結果、純資産の部は前年度より13.8億円増加して641.5億円となりました。資産700.7億円の内訳は、固定資産では、有形固定資産が421.0億円、各種引当資産である特定資産が119.1億円、有価証券等を含むその他の固定資産が69.3億円、流動資産は、現金預金86.6億円を含めて91.4億円となっています。また、2009年度末以降借入金はありません。